

令和6年度第5回 府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会議事録

- ▽日 時 令和6年11月22日（金） 午前10時から午前11時30分まで
- ▽場 所 市役所おもや4階 第1特別会議室
- ▽出席委員 山本会長、松下副会長、野口委員、筒井委員、難波委員、森委員、山口委員、水橋委員、油井委員
- ▽欠席委員 齋藤委員
- ▽出席職員 町井建築施設課長、森影建築施設課長補佐、本木建築施設課文化・スポーツ施設老朽化対策担当副主幹、風間建築施設課公共施設マネジメント担当主査、奥建築施設課文化・スポーツ施設老朽化対策担当主査、武内建築施設課事務職員、小林建築施設課事務職員
- 【関係課】桑原地域コミュニティ課文化センター老朽化対策担当主査、高増中央文化センター所長、塚本スポーツタウン推進課長補佐、山本スポーツタウン推進課施設係長、大沢図書館長、平井児童青少年課長、七里学校施設課老朽化対策マネジメント担当主査

▽傍 聴 者 1名

▽内 容

1 あいさつ

2 議題

① グループINGを踏まえた取組手法の整理について

3 その他

【配付資料】

資料1 地域対応施設の機能連携と複合化検討に向けた取組検討について

別紙1 想定される取組のバリエーションに係る施設配置等について

資料2 検討協議会スケジュール（案）について

会議録

(事務局)

皆様おはようございます。定刻となりましたので、「第5回府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会」を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、事務局より配付資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をご確認ください。

※配付資料の確認

資料の不足はございませんでしょうか。会の進行中、何かございましたら事務局までお声掛けください。

それでは、進行につきまして、会長、よろしくお願いいたします。

【次第1 あいさつ】

(会長)

それでは、第5回の公共施設マネジメントモデル事業検討協議会を開催いたします。

始めに、本日の委員の出席状況について事務局から報告をお願いします。

(事務局)

本日の委員の皆様の出席状況につきまして、出席委員の数が過半数に達していることから、本日の会議は有効に成立することをご報告いたします。

(会長)

次に、前回の協議会の議事録について事務局から報告をお願いします。

(事務局)

前回の協議会の議事録につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただき、文言修正等させていただいたものをお配りしております。なお、議事録の黄色の部分につきましては、非公開となります。そのほか、修正点がございましたらご指摘くださいますようお願いいたします。

(会長)

前回の議事録について修正箇所などありましたらお願いします。

それでは無いようですので、続いて、本日の傍聴の申し出の状況について、事務局よりお願いいたします。

(事務局)

本日の協議会の傍聴ですが、広報やホームページで募集しましたところ、1名の応募がありました。委員の皆様の承認を得て、傍聴者に入場していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

1名の傍聴希望者がいらっしゃるということですので、ご入場いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

それでは、傍聴者が着席するまで、少々お待ちください。

【次第2 議題】

(会長)

それでは本日の議題に入らせていただきます。始めに、グルーピングを踏まえた取組手法の整理について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1について説明させていただきます。

※資料1、別紙1について説明

(会長)

ありがとうございました。グルーピングを踏まえた取組手法の整理について、説明がありましたが、ご質問やご意見はございますか。

(委員)

資料1の3ページから7ページの「(2) 機能連携・複合化に向けて想定される取組のバリエーション」について、複数の取組内容が①、②のように記載されていますが、それらは全て取り組むという意図で記載されているのですか。

(事務局)

想定される取組を示しているものであり、施設によって可能かどうかというのは変わってきます。実際の事業化の段階で、こういった取組ができるかを判断してもらうことになります。

(委員)

個別の状況に合わせて、選択肢があるということを理解しました。

(委員)

別紙1の3ページの「予約可能コマー一覧」について、府中市には会議室として使える施設が他にもあるのではないのでしょうか。例えば、府中市立教育センター、朝日フットボールパークがあると思うのですが、この資料の意図は何でしょうか。

(事務局)

地域対応施設のバリエーションを検討する中で、地域対応施設以外の施設も含めて検討してみるのはいかがでしょうか、会議室の稼働率を算定し、その施設の利用可能コマー一覧を示す形で作成しています。

(委員)

地域対応施設以外も含む会議室の稼働率であると理解しました。

(会長)

ご指摘のように、他にも該当する施設がないか確認してください。施設によって、予約可能なコマの状況が異なることが分かりました。

(委員)

資料1の5ページ、「3）図書館」について、「学校図書室」と記載されていますが、法令上、「学校図書館」が正式名称であり、今後、修正していただきたいです。

個別整備の取組として、学校図書館を地域に開放したとしても、小学校の図書館であれば、小学生に特化した蔵書が整備されています。それをどこまで市民が利用したいと思うのでしょうか。中学校も同様です。

ですので、選択肢として、「地区図書館が学校利用を受け入れる」という取組内容も追加して頂きたいです。地区図書館であれば、幅広い年齢層向けに蔵書を整備しつつ、学生向けも対応していくという形が取れるのではないのでしょうか。学校図書館を地域に開放する際の懸念事項として、運営面が学校図書館と地区図書館で異なってくるという点がありますが、地区図書館と学校図書館について、行政が一体的に所管する動きも出てきています。文部科学省では、公立図書館と学校図書館の所管が一つになっています。府中市でもそうした所管の一元化について検討しても良いのではないのでしょうか。

合築整備については、学校開放は夜間・休日に限定という点は、セキュリティの観点からその通りです。しかし、千代田区、中野区では、ゾーニングを行い、学校エリアでは児童が

利用し、それ以外のエリアでは住民がいつでも利用できるようにしています。そういう整備の方法も検討の余地があります。

(委員)

学校図書館と地区図書館での機能集約を考えた際に、学校図書館には専任の司書がおり、学校教育活動に携わっています。地区図書館では、司書業務とともに事務業務も行っています。

同じ運営職員でも、業務内容が異なっています。運営職員の扱いについても、検討していく必要があります。人員の問題をどう考えるかということです。

(委員)

学校図書館は2職種制度になっています。まず、教員として司書業務に携わる司書教諭です。もう一方は、法令上、学校司書と呼ばれている事務職員の方もいます。他自治体では、学校司書と地区図書館の司書の採用や配置を一元化することもあります。

(委員)

司書の採用や配置を柔軟に行うことができるのは、良い取組と考えます。

(委員)

海外では、地区図書館に、地域活性化や職業斡旋機能を付加する事例もあります。府中市の地区図書館の特徴というものをどのように考えていますか。

(委員)

海外では公民館がありません。よって、図書館がコミュニティの機能を担っており、例えば、調理室や共有スペースを持つこともあります。府中市では、文化センターに公民館機能、図書館機能もあり、市民が一体で利用できる点は、ある種、進んでいることと考えています。

(委員)

学校開放について、例えば、特別教室棟のようなものを設けて、敷地の外からもアクセスできるようにするなど、工夫の仕方はあると思います。学校開放について、府中市の考え方を教えて欲しいです。

(事務局)

学校の地域開放について、ハードとしては新規改築校では一般開放できるようなエリア分けを行っています。一方で、ソフトとしてどのように開放していくかという点は、明確に定まっていません。府中市として学校開放をしないとなっているわけではありません。

(委員)

地方ですと、学校を開放していることも多いです。都市部ですと、動線を完全分離し施錠扉で行き来できるということもあります。運営の部分は、施設構造次第で様々なパターンがあります。

(委員)

府中第八小学校は直近で改築され、会議室や家庭科室は一般開放エリアとしてゾーニングがなされています。しかし、特に家庭科室は日中の稼働率が高く、児童が毎日利用しています。そこを開放して住民が利用するのは、現実的に難しいのではないのでしょうか。校庭の開放のように、夜間や土日が現実的ではないのでしょうか。学校図書館も毎日授業で使っていますし、セキュリティを考えると開放は難しいのではないかと思います。人的な側面からも、余力はないように思います。

(委員)

例えば、音楽室に向かう際に、他の諸室の側を通ることになりますか。

(委員)

府中第八小学校に関しては、教室の横を通って向かうことになります。

(委員)

文化センターと学校の改築の第1グループで言えば、府中第八小学校と是政文化センターが近くにありますが、すでに府中第八小学校は改築が済んでおり、合築は難しいのではないのでしょうか。西府文化センターで言えば、府中第五小学校が近くにありますが。ある程度、組み合わせの候補は絞れてくるのではないのでしょうか。また、同心円を半径 400mとしていますが、学区のゾーンとは異なります。そうした材料もあっても良いのではないのでしょうか。

また、第2グループでは、第1グループでの取組の良い点を反映させていくことも大切になります。

(委員)

改築済みと、今後改築する施設では、考え方は異なることが考えられます。

様々なパターンの可能性があります。具体的に考えていけば、パターンは絞られてきます。府中市としては、考え得るパターンを示して、具体的なケースにまで踏み込むことを考えていますか。

(事務局)

最初のステップとしては、当協議会でも施設配置の関係から8つのグルーピングをお示しましたが、改築等を行う施設についてはその範囲内で取組を検討していく、ということも示しても良いと考えています。さらに、改築の第1グループにあたる文化センターや学校では、複合化の可能性も高くなり、半径400m圏域の中で取組可能な組み合わせを示すことも可能と考えます。例えば、府中第八小学校と是政文化センターについて、実質的に複合化は難しいかもしれませんが、是政文化センターの改築の際には、連携の可能性を検討できないかということもできます。武蔵台のエリアであれば、複合化も選択肢として検討しやすいです。広いエリアと狭いエリアで検討することはそれぞれあっても良いと考えています。

(委員)

近隣の学校同士でも第1グループになっていないものがあります。例えば、府中第六中学校は第1グループですが、周りの小学校は第1グループに入っていません。また、府中第五小学校と西府文化センターは、府中市のハザードマップを見ると、避難できない箇所になっています。そこに建て替えて良いかという課題もあります。直近で改築した府中第一中学校も運用が始まり、改築後の課題も見えてきています。改築の予算も膨らんでしまったようです。手を付けやすい施設について、モデルとしてももう少し深く検討できると良いです。

(委員)

府中市として、特定の施設におけるモデルを作りたいのですか、第1グループのそれぞれの施設について、広く今後の方向性を示したいと考えているのか、どちらですか。この協議会も終盤に近づき、協議会の目的を考えて議論していくことが大切です。

(事務局)

施設の老朽化が進んでいく中で、改築費用がかさんでいきます。財政もますます厳しくなっていく見込みの中で、現状のまま施設を維持していくことは難しいと考えています。公共施設マネジメントの取組を通して、総量抑制や圧縮は考えていく必要があります。今回、モデル事業6を立ち上げて、地域に根ざした似通った機能を、整理できないかと考えています。当協議会では、実際の改築計画を策定するわけではありません。よって、個々の施設について、詳細にあり方を検討していくことは難しいと考えています。しかし、モデルケースとしてある程度大きな視点で施設のあり方、連携を考えていくことはできるかもしれないと考えています。

(委員)

モデルケースというのは、例えば、特定の施設をモデルケースにすることなのか、第1グループにあたる施設を全てモデルケースにするのか、どちらですか。

(委員)

第1グループにあたる施設を広くモデルケースとして捉えつつ、個別の施設について、詳細な立地条件等を基に、ケースバイケースで考えていく必要があります。先ほどご指摘のありましたハザードマップとの兼ね合い等については、当協議会後の次のステップで、事業化の段階で考えていくことではないでしょうか。

(委員)

複合化等の様々な手法が考えられることは理解しています。しかし、例えば、府中第五小学校にその手法が当てはまるのかが気になります。今後の財政逼迫の話もありましたが、建替の際に仮設校舎を建てるにも多額の費用がかかります。府中第七小学校、武蔵台小学校であれば、武蔵台小学校は児童数が減ってきており、どちらかに統合することも考えられますが、学区の問題もあります。学区の圏域は、半径400mのような設定ではありません。

空き教室を活用するということも考えられると思います。モデルが一つ決まってくれば、「仮設校舎は建てずに出来ます」「文化センターと学校が複合化し敷地に制約がなければ費用を抑えることができます」のように、一歩進んだ視点で議論できるのではないかと考えています。行政としては、すべて平等に考えていくことが必要かもしれませんが、財政負担の軽減を考えれば、手を付けやすい所から手を付けていくという視点が重要になります。当協議会では、どこまで議論して良いのかがまだ良く分かりません。

(委員)

公共施設マネジメントの取組であるため、基本的に財政的制約があります。当協議会では、これまでの検討の中でも、府中市の地域対応施設について、取組の選択肢についてパターンを示しています。そのパターンを当てはめると、例えば第1グループではどのように選択肢が絞られていくのかは、検討の余地はあるかもしれませんが、実際にはできないかもしれませんが、例示として示していくということです。

(委員)

昨年の12月に「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」で答申が出ていますが、「武蔵台小学校は府中第七小学校との統合の可能性を検討する」という趣旨の内容がありました。そうした答申の内容を前提に考えないといけません。

(委員)

「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」での答申の内容は、府中市として受け入れることになりますか。

(事務局)

「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会」での答申では、「武蔵台小学校と府中第七小学校は統合の可能性を検討する」、「府中第七中学校と第十中学校は統合の可能性を検討すべきであるが、距離が遠くなるため、学区の問題が解消できる土地があった場合、検討する」となっています。しかし、実際に統合するかは、今後、教育委員会で検討する事項となっています。

(委員)

そうした答申の内容を把握した上で、議論していくことが重要になります。今後、5年程度時間が経てば、また別の検討も必要になってくると考えています。

(委員)

将来の人口動態は予測が難しいものでもあります。工場跡地にマンションが建てば、いきなり人口が増加するということもあります。

(委員)

「府中市子ども子育て審議会」の中では、武蔵台地域は人口が増えていくと示されています。また、府中第一小学校の周辺では、今後、高層マンションの建設が検討されています。そこまで検討を始めると、着地も難しくなりますが、どこかモデルを検討して、考えていくことは重要と考えています。

(委員)

第1グループを全般的に検討しつつ、ある程度ターゲットを絞っていくという趣旨と理解しています。第1グループの施設については、今後、改築、建替を行う見込みであるため、そのまま建て替えるのではなく、当協議会で示す内容を反映してもらいたいと考えています。

(委員)

以前、当協議会の中でも地域プールの廃止について話題となりました。その際に、施設を廃止した結果、児童や保護者への影響がどうであったか、について考える必要がある旨の意見も出ました。地域プールは夏期限定の施設ですが、その他の地域対応施設については、通年で住民に影響が出る内容となっています。利用者のニーズを今後、どのように汲み取っていくのでしょうか。市民のニーズを拾い上げて、評価するというステップがあっても良いのではないのでしょうか。

(事務局)

最終的な事業化の段階、施設整備のタイミングでは、地域の方と対話する場は必要になっ

てきます。それを踏まえて、実際にどこまで取り組むのかを検討していきます。当協議会では、その前段として、各施設の所管課で複合化等に取り組んでいくことができるよう、統一的な基準を示し、機運を高めたいと考えています。当協議会で「検討すべき」との結論に至れば、各所管課で議論の土台に上がります。そこに当協議会の目的があります。

(委員)

答申の申送事項として、そうした効果検証が必要である旨を記載していただくのが良いと考えています。廃止や建替を行うにしても、事業実施後の住民の声を拾うことが行政として重要になってくると思います。

(委員)

これまでのモデル事業の答申の中でも、委員の意見全体と個別意見をまとめていることもあったと思います。

(委員)

工作室や料理講習室は稼働率が低く、複合化を検討しやすいように思います。施設そのものだけではなく、実際の運用をどうするかという視点も重要となります。府中第一中学校では、地域開放エリアを有しているものの、実際に地域住民が利用するということはないように思います。方針が決まらなないと難しいということは理解していますが、実際に運用していく中で、施設や運用のあり方を見直して、今後に活かしていくということが重要と考えています。

(委員)

武蔵台エリアで考えると、家庭科室、料理講習室は、武蔵台小学校、府中第七小学校、府中第七中学校、武蔵台文化センターにもその機能があります。これらが全て同時に使われていることはないと思います。個々の立地状況等で、ケースバイケースですが、各施設にある必要がないものについて、機能集約も考えられると思います。

(委員)

具体的なケースでそれぞれ考えていき、運用しつつフィードバックしながら、改善していくことは大切と考えています。

(委員)

府中第八小学校はプールが屋上にありますが、暑さ対策という点では、地下に作るということもあるのではないのでしょうか。他にも民間施設を借りるということもあると思います。この施設ではこういうことができる、ということを考えていくことが大切です。

(委員)

中高生が描く府中市の将来像について考えを聞く機会がありました。そこで、中高生は「プールやプラネタリウムが欲しい」という発言をしていました。しかし、府中市には既にそういった機能を有する施設があります。府中市は市内への告知や周知が弱いのではないかと考えていました。また、その際にそうした施設のニーズは確かにあるのだと感じました。

(委員)

府中第八小学校で行われているゾーニングは、扉によるゾーニングなのですか。

(委員)

格子状のフェンスによるゾーニングとなっています。

(委員)

学校は、子どもの居場所でありつつも、社会との接点であるべきと考えています。その点、文化センターとの機能連携は重要であり、学校との相性は良いです。子ども達が学校から出て、社会と触れあう場になります。

しかし、機能集約となると、セキュリティの問題もあり、非常に難しいと感じています。ゾーニングがされた上で、例えば音楽室や家庭科室は、平日は授業で利用し、休日は住民も利用できる、という形であれば良い考えであると思っています。また、学校の和室についても、学校外から講師を呼んで、児童とお茶を飲みながら交流するということも良いでしょう。

小学校と文化センターが複合化した場合、児童は、放課後に文化センターに行きやすくなるでしょう。

(委員)

学校として地域に開放すると有効だと考えられる機能は、どのようなものがありますか。

(委員)

児童が大人や地域と触れ合う機会が昔よりも減っていると考えています。安全面への配慮も重要ですが、文化センターのように、児童と地域が触れ合う場があると良いと思います。

(委員)

例えば、小学校のクラブ活動の中で、学校の会議室や和室を活用して児童と地域の大人が交流することができれば、地域との触れ合いができると考えています。

(委員)

施設だけの問題だけではなく、機能の維持向上をより少ない費用で行うことができるのか、それが大切だと考えています。ある程度、モデルを絞っていくことを検討できればより良いと思います。

(委員)

全体としての方向性を示しつつ、可能であれば第1グループについてはある程度具体的な方向性を示していくのが良いのではないかと考えています。

(会長)

他にございますか。

それでは、無いようですので、議題3のその他について、事務局から説明をお願いします。

【次第3 その他】

(事務局)

資料2について説明させていただきます。

※資料2について説明。

次回、第6回の協議会の開催日程についてですが、1月を予定しております。

内容としては、答申（素案）をご確認いただく予定でございます。

(委員)

今回は事務局で素案をまとめてもらい、それについて意見交換を行うのが良いです。議論の出発点である素案がないと、議論が拡散してしまう恐れがあります。

(事務局)

事務局にて、これまでの議論を踏まえて、素案にまとめ、資料として示したいと考えます。

(委員)

これまでの各回の議論では、委員それぞれに思いがあり、話が深い方に向いています。そうした意見を汲み取りつつも、当協議会の目的が、俯瞰的に大きな方向性を示すことにあるのであれば、そうした内容で素案を作成してもらった方が良いと考えています。

(会長)

それでは、委員の皆様、よろしくお願いいたします。全体を通して、何か質問はございますか。

それでは、無いようですので、これで第5回の協議会を終了いたします。ご議論いただきありがとうございました。

以上